

本当の争点見抜く力を

昨日10日、安全保障などに関する政府の機密情報を「特定秘密」に指定する特定秘密保護法が施行された。機密情報をもらずと厳罰が科され、国民の知る権利の侵害が懸念される。

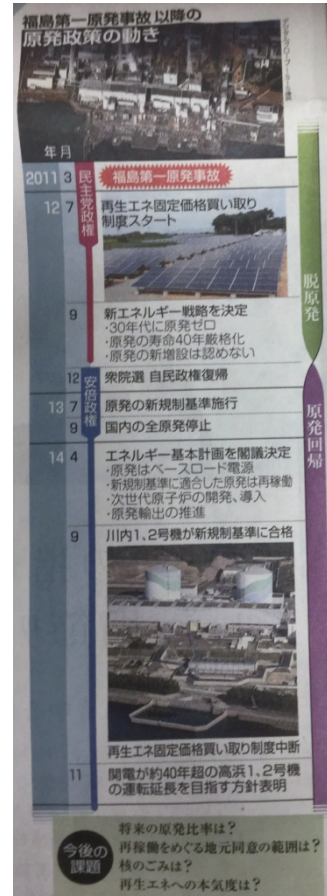
件名は中日新聞12月2日「特報」のタイトルである。「政治とカネ、原発、安保、選挙でリセット」と注意を喚起する。今回の突然の衆院解散、総選挙の大義が問われてきたが、原発・安保などがリセットされてはたまらない。

中日は9日には、選挙「おさらい3つの論点」について2面を使って特集した。アベノミクス、集団的自衛権、原発再稼働の3つの論点をカラーの図や年表でわかりやすく伝えている。アベノミクスに注目が集まるが、争点はそれだけではない。これまで2年間の安倍政権を検証し、選挙後を踏まえて争点を報道することが求められる。これに応えた中日特集を評価したい。

今日11日は東日本大震災・原発事故から3年9ヵ月が経つ。「3・11」をけっして忘れてはならない。今度の選挙は、戦後日本とともに、「災後の日本」のあり方を問うものだ。写真の福島原発事故以降の原発政策の動きをみると、安倍政権になり「原発回帰」の傾向が際立っている。選挙で与党が勝利すれば、川内原発をはじめとして、次々に原発再稼働が実施されるであろう。福島の実態から、原発再稼働が許されてよいのであろうか。

下の写真は、憲法をめぐる安倍政権の動きについて、安倍首相の発言を交えて年表にまとめたものである。「96条改憲」から「解釈改憲」へ、そして集団的自衛権の行使容認の閣議決定に至る経過がよくわかる。

自民大勝が伝えられるなかで、選挙後に「不安」が募るが、しっかりと政治の動きを見つめていきたい。



(2014年12月11日)